

特集

# 文化財の守り人



辺見十郎太ゆかりの柱  
曾於市最古の石橋

を守る 落合 兼磨さん (75)

小さい頃から「この柱は西南戦争のときに  
辺見十郎太がここに寄ったかって、部下に指  
示を出してた」って聞いていました。だから、  
家を建て替えるときも親父が「これは残さな  
きゃいけない」って言って、説明書きもつけ  
てあるんです。

なんでここに辺見十郎太が来たかですか？  
ああ、うちは井戸がありまして。その井戸  
の水は「冷たくて美味しい」って旅人の噂に  
なるほどだったらしいんです。昔の大通りも  
すぐ横を通ってますしね。それで、人が来て  
立ち寄る、給水所のような場所だったと。そ  
れもあって、辺見十郎太もここに陣地を置い  
たんじゃないでしょうか。今はもう、その井  
戸の水は飲めないんですけどね。

辺見十郎太は、熊本での戦いのあと、人吉

から伊佐、霧島か  
ら財部、そしてこ  
こまで来たそうで  
す。そして、城山  
での戦いで西郷隆  
盛の最期までつい  
ていったといわれ  
ています。そんな  
人がここにいたこ  
とがあると思うと、  
すごいですよ。



わたしは歴史が好きで定年するまで社会科  
の先生をやったんですが、まさか自分の家  
にこんなに歴史に関連するものがあるなんて  
ね。灯台下暗しですよ（笑）。

石橋もたまたま、他のものを見に来た教育  
委員会の方が見て「この石橋、明治35年って  
書いてありますね…」って話になって。大隅  
町にあった太鼓橋が流されてしまった後だっ  
たから、これが一番古いつてなったんですよ。  
驚きですよ。この橋をつくった石工の名前  
も彫ってあってね。こういうのって、自信が  
ないと名前を入れたりしないみたいです。つ  
くった人が「これはいい石橋ができた」と思っ  
てくれたみたいですね（笑）。

新聞にも載ったら、鹿児島市から見に来て  
くれた方もいたんです。岩北小の教員の方々  
が研修で来て下さったり。石橋も柱も、せっ  
かくこうして残っているのだから、なるべく  
残していかないとですね。

## 取材を終えて

明治維新150年という節目、落合さん  
のお宅の「辺見十郎太ゆかりの柱」は、西南戦  
争の足跡を知ることのできる貴重な場所のひ  
とつだ。

落合さんから聞く辺見十郎太の話やこの土  
地の話は、どこか人間味にあふれていて面白  
い。落合さん自身が歴史が好きだから「歴  
史のはなし」ではなく「前に起きた身近な話」  
に聞こえて、想像がふくらんでいく。

拠点に使われたという敷地内は広く、今回  
紹介した石橋と柱以外にも、水神や不動明王  
など歴史的なものがいくつもあるという。

家の一部として、歴史の一部として、ここ  
を大事に守り、伝えていく落合さんにぜひ話  
を聞いてみて欲しい。



辺見十郎太ゆかりの柱―末吉町岩崎大園地区  
落合家を拠点に西郷軍の猛将辺見十郎太が握り  
飯を食べながら指示をしたという逸話も残る。

# 文化財の守り人



大薬師堂を守る 大薬 満秋さん・和子さん



お堂は実家のすぐ横にあったね、遊び場だったんです。わたしが小学2、3年生の頃までは、田植えが終わった頃に赤飯のお供えもしていて、学校帰りにつまんだりしてました(笑)。それぐらい身近だったんです。

55年くらい前にはお祭りもやらなくなってしまうんですが、うちの亡き母とお隣さんがいつも掃除をしにいつて、きれいにしていましたね。わたしも受験とか孫が産まれるときとか節目にはお祈りに来てました。年頃るときは「素敵なお嫁さんが欲しいです」ってお願いしてね。こうして、叶ったでしょ(笑)。うちの実家のすぐ近くにあるものだから、「大路さんちの神様」って思われてたこともあって…。違うんですよ。元々、通り沿いの方にあったのを廃仏毀釈が あつたので隠すために今の場所に移されたんでしょう。450年以上前からこの地に祀られている神様だからもつとみんな守っていききたいなど。

それで、4年前から田植えが終わった時期に集落の皆さんで集まって、赤飯をお供えしています。以前までは、母がやっていたのを夫婦で引き継いでやっていたんだけど、今はみんなの分も一緒に用意してね。そのとき、檣神社の宮司さんも来てくださって古希や米寿のお祝いや厄年のお祓いも一緒にやっています。皆さん喜んでくれていますよ。

ここにある薬師如来と十二神将は、黎明館であった企画展でも展示されたんです。最初は、外に出すことに抵抗があつたんですが、誰にも知られず朽ち果てていくよりは、色んな人に見てもらって、「曾於市」を知ってもらうきっかけになった方がいいと思って。

「今更なんですか」って言われることもあるんですが、そうじゃない。7、8年も経てば、もうなくなってしまうかもしれない。そんな時期だと思っています。何かしないと、いつかは土に帰っちゃいますから。大きいことはできなくても自分なりに、皆さんと一緒に守っていかねばと思っています。



## 取材を終えて

ここが知られるキツカケになったのは「中で祀られているのはどんな由来のものだろう？」と大路さんが市の教育委員会に依頼し、調査が行われたこと。廃仏毀釈の影響がなく、保存状態も良い室町時代の木神だという貴重な「薬師如来」と、薬師如来を守護する「十二神将」ではと推測された。甲冑をつけた武将の姿で表される十二神将は、曾於市内で確認されている唯一だそう。

薬師堂に向かう道は竹林と杉並木を抜けるのだが、風が抜けて気持ちが良い。薬師堂だけでなく、そのまわりも整備しているのだという。薬師堂を守るのは大路さんだけでなく「保存会」も発足したとのこと。大路さんの行動がどんどん未来につながっている。



大路薬師堂―末吉町南之郷 大路地区  
お堂のまわりには古石塔群も残り、それぞれが地域を知る上で貴重な文化財になっている。

# 文化財の守り人



岩屋観音を守る 谷口虎彦さん（81）



岩屋観音を修行場に使っていた吉田一円さんというお坊様が岩壁を彫っていたとき、ご先祖様もお手伝いしていたと聞いている。それで、お坊様の遺言で「ここをきれいに守ってほしい」って言われて、ずっとね。

わたしも中学校のときから、手伝いに来てたよ。父さんがそのときはやっててな。父さんが大東亜戦争に行ってたときは、その間、集落の人たちもやってたの。父さんも帰ってきてからは70歳くらいまでやってたな。わたしは45歳くらいのにきに引き継いだのかな。仕事が終わってから、掃除にきてね。夏は日が長いからいいけど、冬はすぐ暗くなってるね。今は週に一回、多いときは毎日行くときもあるな。こないだも雨がすごかったでしょう。だから、山崩れしてないかなとか見にね。前にね、崩れたことがあるの。岩が落ちてきてね。お社は岩壁より奥まったところにあるか

ら、大丈夫じゃないかっていうんだけど、やっぱり心配だよ。落ちてきた岩は危ないかなと思うんだけど、ひとまずロープで岩に近づかないようにしてる。川のほうに転げないように張ってあるロープも、わたしが張ったんだ。来てくれた人が落ちたら、危ないでしょう。今も鹿児島市や霧島市から来てくれる人もいて、嬉しいね。

わたしも、掃除したあとには毎回、健康をお願いしてるの。40歳のときに、家で階段から落ちて頭にケガしたんだけど、今もこうして生きている。岩屋観音のご利益じゃないかなと思うよ。あ、でもそのケガで頭は悪くなっただかもしれないな。生まれつきかもしれないけど（笑）。

前に掃除していたらすごく太くて大きい蛇が出たことがあってね。こっちが見てても、全然動かなくて。あれは、神様だなと思ったね。

みんなで守ることができたらいいんだけど、なかなかね。引き継げる人もいないから。やれることはやろうと思ってるよ。



## 取材を終えて

行ったことがある方はご存知だと思うが、岩屋観音は330段余りの長く急な階段を下っていった先にある。

谷口さんは、葉が重なっていたら除け、大きな枝が落ちていたら脇道に投げながら、スタスタと軽やかな足取りでその階段を降りる。手には、水の入った2リットルのペットボトルとお供えする花束。水は下で出なくなったため、家からもってきている。

思わず、「大変じゃないですか？」と聞くと、「ほかにできる人がいないし、きれいにしないと。体が動く限りは続けたい」と話してくれた。決して気負うことなく自分のことのようにこの場所を想う谷口さんの姿はまさに「守り人」だった。



岩屋観音―大隅町月野久保崎地区  
大鳥峡の遊歩道を下流に下ったところがあり、自然の岩壁に仏像や雲龍などが彫られている。